

第51回 教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2014年6月29日（日） 10:00-16:40 私立海城高校

2 参加者

河潟、矢島み、根本、瀧上、宮嶋、川村、上村、小尾、飯田、小林、山下、畠山、南島、阿部、

3 前回議事録の確認

一部字句を修正し、それ以外は議事録案の通りに承認された。

4 中教審関連・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

○中教審関連

- ・次年度使用に供される教科書の全国開示が始まったとの報告がなされた。
- ・中教審、教育再生会議、学力到達度テストの動きにも注目して、今後の活動を行う必要があるとの報告がなされた。

○理数系学会・他研究団体等

- ・5/17に行われたCSERSのシンポジウム「高等学校理科で何を学ばせるか」に参加した委員から以下のような発言があった。
 - ◇ J p G Uの議論の方が進んでいる。
 - ◇ 綜合理科の理念は賛成だが、現実としては実施は無理との雰囲気であった。
 - ◇ J p G UのB案の紹介は、具体的な中身をもう少し紹介しても良かったのではないか。
- ・理数系学会では、10/26（日）に「理数系の初等中等教育を考える（仮称）」というシンポジウムを開催する予定であることが報告された。
- ・6/14に学術会議主催の「高校地理歴史教育に関するシンポジウム」が開催され、高校地歴公民科では、地理基礎、歴史基礎という必修科目の履修が望ましいという趣旨の議論がなされた。
- ・6/7にNew Education EXPOにて教育における21世紀型スキルの紹介がなされたが、参加した委員からは現実的でないとの意見が多く出された。

○教育検討委員会関連の報告事項

- ・教員養成小委員会の活動度を上げることが急務であるとの意見が出された。その前提となる幹事会での議論を至急すべきであることが確認された。

○その他

- ・宮嶋委員から、学術会議・科学と社会委員会・科学力増進分科会・高校理科教育検討小委員会での議論の概要が報告された。委員会では1学年で履修する必修理科が有力な案となっており、6/29の委員会でJpGUのB案の紹介を行うことが報告された。

3 各種働きかけの進捗状況の確認（現時点で継続中のもの）

- ・6/23に畠山委員長、瀧上委員、地学教育学会長牧野氏が文科省へ出向き、教育課程課長と懇談がなされた。畠山委員長から地学基礎の設置が望ましい施策であったとの評価を伝え、文科省からは、現行指導要領の部分改訂は難しいが、教育課程・教科書等の改善に向けて、意見を積極的に出して欲しい旨の発言があったことが報告された。

4 協議

(1) 4/29地学教育セッションの総括について

概ね良い評価であったが、以下のような指摘がなされた。

- ・なぜ地学を学ぶ必要があるのか、地学以外の人々向けのアピールが明確でなかった。
- ・具体的な科目の内容が想像しにくかったのではないか。
- ・環境問題を扱うと、地理との棲み分けが曖昧になってしまうのではないか。

(1) A B C案の今後の検討方針について

全体の討論を通じ、各案について以下の検討方針が確認された。

A案：現行の教科書の内容を改善するべく、教科書会社への提案を行う

B案：現在の案の内容をさらにポリッシュするため、以下の科目の作成関係者から情報を得て、その案と

の比較検討を行う。

- ・旧学習指導要領の理科総合A Bの統合された草案
- ・現学習指導要領編成途中の総合理科案（基礎科学）

C案：時期を見計らって、さらなる検討を加える。

その後、各WGでの検討を行い、次のような検討課題が確認された。

A案：学ぶべき用語、不適切な箇所（海水成分、緯度別熱収支など）の検討
授業で取り上げるべき実験実習の検討、非地学教員向けの指導書作成

B案：目標やキーコンピテンシーの明確化、現行の中学理科の到達度の検討

(2) 中教審への働きかけについて

- ・理科専門部会にJpGUの関係者を送りこみたいが、どのようにすれば実現可能か、先のシンポジウムで講演を頂いた安彦先生に問い合せてはどうかとの意見が出された。

(3) 地学の科目名変更について

- ・JpGUの会員にネットにてアンケート調査を実施する方向で検討・準備することを承認した。それに先だって、教育検討委員会で意見を求めることを確認した。なお、アンケート調査については、①「地学」の科目名変更の必要性の有無、②必要な場合、「地球科学」、「地球惑星科学」等の具体案を提示して調査することを確認した。

(4) 他研究団体との意見交換について

- ・独自の案を考えている天文系との意見交換は必要であり、地学教育学会との連携を深めてゆくことを確認した。
- ・地歴科での基礎科目設置の動きに関して、地理系との情報及び意見交換が必要であるという認識に達し、次回小委員会にJpGU教育検討委員会の地理系委員を招くことを確認した。

(5) 研究集会「地球惑星科学の持続的発展をめざした教育の充実」（京大生存圏、9/27, 28）について
本委員会からは、畠山委員、根本委員、小尾委員、上村委員、宮嶋委員が参加することに決定した。なお、主催者からの旅費に不足が出る場合には、JpGUから旅費の補填をすることを確認した。

(6) その他

- ・11/23 地震学会・秋の大会で小中高で教える地震教材について教員向けワークショップを行うので、意見をいただきたいとの発言が根本委員からなされた。
- ・畠山委員より8/8, 9女子中高生の夏の学校に参加を要請されているが、情報をいただきたいとの依頼があった。

5 次回小委員会

7/27、8/16, 17の日程の中から、各委員の都合を調査して開催日を決定することを確認した。内容は、講師を招いて他団体の総合理科案の学習を行うことを予定する。